

瀬戸内海 国立公園

National
Parks
of Japan



国立公園とは



国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで34の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど千つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが隔りなす地域の歴史や文化にふれることができます。是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

地形 地質 景観



瀬戸内海を大きくわけると、東から筑路島とその周辺地域、備前瀬戸とその周辺地域、芸予諸島とその周辺地域、周防瀬戸とその周辺地域の4つの地域に分けられます。瀬戸内海と呼ばれる比較的大い海域と、瀬戸内海峡と呼ばれる狭い水路で繋がった複雑な構造をしており、外洋から隔たった内海は、瀬の干満差が大きく、潮流が速いことも知られています。古生代から新生代まで多様な地質が分布していますが、多くは花崗岩です。六甲山麓にある鐘乳洞には風化・浸食されやすい花崗岩が形成する「バッドランド」という特異な地形が見られます。また、瀬戸内火山岩類と呼ばれる火山噴出物の地域では、開折溶岩台地で知られる屋島、集院岩の奇岩や奇峰が見られる小豆島の寒霞渓などの景勝地があり、雄偉では溶岩ドームや火口跡、貴重な白乳色の黒曜石などが見られます。



女島浜(豊田県美濃市)

屋島(徳島県三好市)

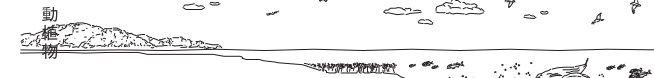


特長 —— 自然と暮らしが調和する内海多島海景観 ——

瀬戸内海国立公園は、昭和9(1934)年に雲仙・霧島とともに日本で最初に国立公園に指定されました。明石・紀淡・鳴門・関門・豊予の5つの海峡に囲まれた地域のうち、広い海域とそこに点在する島々、それを望む陸地の展望地が公園区域として指定されています。その範囲は1府10県にまたがり、南城を含めると90万haを超え、国内で最も広い国立公園です。特長は、大小数々の島で構成された内海の多島海景観です。沿岸の陸地にはそれを見られる展望地が多数存在します。また、瀬戸内海一帯は早くから文化が栄え、人と自然とが共生してきた地域であり、局々の段々畑や瀬戸の港町など、自然と暮らしが一体となった親しみやすい景観であることも大きな特長の一つになっています。

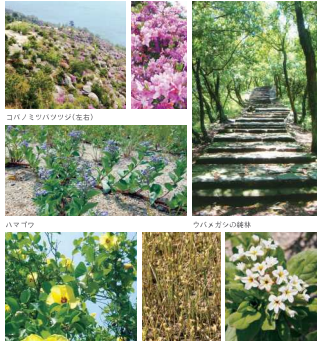


女島(和歌山の紀伊郡から見た瀬戸内海(左奥は徳島))



—— 野生と希少な植物 ——

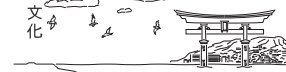
沿岸地域の植生は、アカマツ、コナラ、ツツジ類などからなる二次林が大部分を占めています。しかし、海岸沿いの崖地のウバメガシ林、シイ・カシ類が優占する杜沢林、卯山の針広混交林など、貴重な自然植生も各地に残っています。また、砂浜の海岸には、耐塩性のハマゴウやスナビキソウ、ハマボウなどの海岸植物がみられ、塩性湿地にはチャボイなど希少な植物もみられます。



ハマボウ

ハマボウ

ハマボウ



—— 交易の栄えた瀬戸内航路と今も残る港町 ——

瀬戸内海は古来より国内外を結ぶ海上交通の大動脈でした。江戸時代には瀬戸内海航路が整備され、北前船や朝鮮通信使などが国内外から来航し、瀬戸内・尾道の進出が繁栄しました。今でも牛窓・下津井・鞆・浦戸尾・御子・室積などの歴史情緒ある町並みが各地で見られます。また、瀬戸内海は複雑な潮流と地形であるため、船艀に長けた塩蔵水夫や村上水軍が活躍し、その拠点には数多くの遺構が残されています。

—— 人と自然が創出する文化 ——

早くから繁栄していた瀬戸内海地域では、古くは万葉集や古事記、太平記などの館所に名所が記されています。また、源平合戦や寺社参拝などを背景とした数多くの建造物や史跡があり、島嶼では伝統的な祭事や風習が今なお残っています。



飯沼の茶屋(徳島県美濃市)

七尾の塩蔵神社(徳島県三好市)



—— 自然環境の保全 ——

国立公園の自然環境を保護し、豊かな生物多様性を守るため、野生動植物の保護、景観保全、調査などの取り組みを行っており、ミヤジマンボの保護事業や生息地の調査、海岸清掃、海城公園地区観音地調査など、様々な事業を関係者との連携を図りながら実施しています。

—— 自然とのふれあいの推進 ——

篠羽川、宮島などの利用拠点を中心にパークボランティアや自然公園指導員と協力しながら、四季を通じて自然観察会などの各種プログラムを実施しています。また、子どもたちを対象にした「子どもパークレンジャー」など、自然や環境の大切さを学ぶための事業を実施しています。

—— 公園施設の整備 ——

国立公園を訪れた人々が安全に、そして快適に自然とふれあうことができるよう、六甲山、五色谷など公園内の利用拠点を中心にビジターセンター、遊歩道、園地、野営場といった利用施設が整備されています。



高知市(高知市)市街

高知市(高知市)市街

高知市(高知市)市街

国立公園の利用上のマナー

多くの方に楽しく利用していただくために、国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守ってください。

- ゴミを捨ててください
- 花や植物を採らないでください
- 野生動物に餌を与えないでください
- 動物を襲わないでください
- 歩行中禁煙
- たき火は指定の場所で行いましょう
- 高波・波浪・強風に注意(潮位の変化に注意)
- 雨天時・土砂崩れに注意
- 地震・津波に注意(大きな揺れを感じたら高所へ避難)

- ・指定場所以外でのキャンプの禁止
- ・山火事注意(瀬戸内海は、降水量が少なく、山火事が特に発生しやすい地域であるため、火気の取り扱いには注意)
- ・車で遊覧、釣りをするときは着るべき危険な生き物に注意(ゴンズイ、ヒョウモンゴロウ、シロガサ、ウミナシなど)

※ 図とこの案内マップは、西定区域の概要を示すために作成したものであり、細部があることと考慮した上でご利用ください。
【事務局】 高知市 環境部(高知市三好市界隈山公園内)。